

木造阿弥陀如来立像(哀愍寺) 1 軀

木造阿弥陀如来立像

もくぞうあみだによらいりゅうぞう

分野／部門

有形文化財／美術工芸品[彫刻]

所有者

宗教法人 哀愍寺(あいみんじ)

所在地

大阪市住吉区上住吉 2

紹介

法量：像高 97.5cm



元禄 14 年(1701)の『摂陽群談』によれば、哀愍寺は天正 2 年(1574)の創建で開山は玉念とある。

本尊は 3 尺の阿弥陀如来立像で、快慶の様式を踏まえた通規の安阿弥様をとる、玉眼を嵌入した像である。

制作年代は 13 世紀後半から 14 世紀初めの鎌倉時代後期と考えられる。形式化は見られるが、市内有数の鎌倉彫刻である。

『摂陽群談』や享保 11 年(1726)の『哀愍寺記』によれば運慶作とあり、古像として認識されていたことがわかる。